

精神的配慮に配慮した肝炎医療コーディネート養成プログラムの開発

研究分担者 小川 朝生 国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター
精神腫瘍学開発分野・分野長

研究要旨

慢性疾患の診療においては、急性疾患と異なり、中長期的な治療のアドヒアランスを高めるために、疾病教育並びに社会的な支援を同時に提供する必要性が指摘されている。肝炎においてもサービスを調整・統合するために、ケースマネジメントの手法の適応を先行研究から検討した。その結果、目標設定とサービスの調整機構、モニタリングの 3 項目の必要性を確認した。今後、上記機能をもつシステムの構築を目指す予定である。

A . 研究目的

慢性疾患の診療においては、急性疾患と異なり、中長期的な治療のアドヒアランスを高めるために、疾病教育並びに社会的な支援を同時に提供する必要性が指摘されている。

上記の点は、肝炎治療についても同様である。しかし、患者の抱える問題に対応して、複数の支援が制度化されて来てはいるが、互いに重複している一方、カバーできていない面がある（ケアの最適化、包括化ができていない）点と、ケアの継続性が担保されていない点、すなわち支援体制が分断化してしまっている問題があげられる。

特に、中長期の支援を考えなければならぬ精神心理的ケアの観点からは、ケアの継続性を確保するための取り組みが緊急の

課題である。

ケアの継続性を確保するための対応には、クリニカルパスとケースマネジメントの 2 つの手法がある。

クリニカルパスは、工学系のプロセス管理で用いられていた手法を、医療に応用したものである。Karen Zander によって開発され、米国に導入された DRG/PPS (diagnosis-related group / prospective payment system: 疾患別関連群包括払い方式) という診断群別の包括払いの診療報酬によって、急性期病院を中心に急速に導入されるに至った。パスの功績は医療の標準化を大きく推進した点にある。平均的な治療の流れが可視化され、最適化を進める強力なツールになる一方、個別化された問題には対応しづらい点がある。

ケースマネジメントは、「多様なニーズを持った人々が、自分の機能を最大限に発揮して健康に過ごすことを目的として、フォーマルおよびインフォーマルな支援と活動のネットワークを組織し、調整し、維持することを計画する人もしくはチーム活動」を指す。その特徴は、ケースマネージャーを中心に、直接介入と間接介入を調整し、ケアの包括性と継続性を図る点にある。

肝炎では、対人サービスでは、チームワークを前提とするとされるが、実情はサービスの専門化や断片化が生じている。そこであらためて、サービスを調整し、統合するために、われわれはケースマネジメントの手法を用いた患者支援システムの試みを計画した。

B．研究方法

海外の慢性疾患モデルにおけるケースマネジメント手法を中心に、先行事例の収集を文献検索を中心におこなった。

(倫理面への配慮)

本年度は、文献等の検討であるため、倫理面での配慮は問題はない。

C．研究結果

高齢者や慢性疾患を対象としたケースマネジメントを参考に、構成要件やコーディネーターの必須能力についての情報を収集した。

このような連携を必要とするマネジメントが有効に機能するためには、3つの要件、一貫した目標の設定、

包括的ケアの視点として社会的要因に配慮をしたサービスの編成と提供体制の最適化、

変化を見逃さないモニタリングシステムが埋め込まれていること(連携の空白を作らない)が明らかになった。

また早期検出・簡便診断に基づいたマネジメントを実施するためには、複数の医師が連携するだけでなくとの連携だけではなく、看護師による各専門職の役割の調整、定期モニタリング機能を有する専門職と患者・家族との密接な接触の確保など、強化すべき点があった。

D．考察

肝炎の疾病モデルに合わせたモデルを構築する基礎的資料を収集した。

E．結論

肝炎に対するモデルの構築に沿って、構成要件と必須能力を設定し、モデルの構築を進める予定である。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

1. Nakanishi M, Okumura Y, Ogawa A. Physical restraint to patients with dementia in acute physical care settings: effect of the financial incentive to acute care hospitals. *International Psychogeriatrics*. inpress.
2. Hirooka K, Fukahori H, Taku K, Togari T, Ogawa A. Quality of death, rumination, and posttraumatic growth among bereaved family members of cancer patients in home palliative care. *Psychooncology*. 2017;26(12):2168-2174. Apr 22. PubMed PMID: 28432854.
3. Hirooka K, Fukahori H, Taku K, Togari T, Ogawa A. Examining Posttraumatic Growth Among Bereaved Family Members of Patients With Cancer Who Received

- Palliative Care at Home. Am J Hosp Palliat Care. 2017;35(2):211-217. Jan 01:1049909117703358. PubMed PMID: 28393544.
4. 小川朝生. せん妄 適確にアセスメントをし、せん妄を予防する. 看護科学研究. 2017;15(2):45-9.
 5. 小川朝生. がん患者の包括的アセスメントとチーム医療の実践. 薬局. 2017;68(8):30-5.
 6. 小川朝生. サイコオネコロジストの立場から. 日本医師会雑誌. 2017;146(5):937-40.
 7. 小川朝生. 医療における意思決定能力の評価. 緩和ケア. 2017;27(4):263.
 8. 小川朝生. 寝かしたほうがよい不眠、寝かさなくてよい不眠 閾値下せん妄を見つける. 緩和ケア. 2017;27(4):241-5.
 9. 小川朝生. サイコオネコロジーの意義と診療の実際. 新薬と臨牀. 2017;66(5):66-9.
 10. 小川朝生. 《がんサポートのいま》がんサバイバー支援とピアサポート. Modern Physician. 2017;37(10):1032-5.
 11. 小川朝生. 認知症・せん妄の緩和ケア. 精神科. 2017;31(4):295-301.
 12. 小川朝生. せん妄対策が変わってきた! 「DELTAプログラム」ってどんなもの?. エキスパートナース. 2017;33(12):51-7.
2. 学会発表
1. Ogawa A, editor A collaborative educational intervention to prevent delirium. Focus issues in Psychosomatic Medicine : Research and Clinical Practice; 2017/6/9; Seoul.
 2. 小川朝生, 臨床現場での活用(高齢がん患者向けツールとして). 第16回日本メディカルライター協会 シンポジウム; 2017/10/30文京区(東京大学).
 3. 小川朝生, がんになっても心穏やかに生きる知恵. 第32回日本がん看護学会学術集会 市民公開講座; 2018/2/4 千葉市(ホテルニューオータニ幕張).
 4. 小川朝生, チームで行うがん患者におけるうつ病・うつ状態への対応. 第30回日本サイコオネコロジー学会総会 第23回日本臨床死生学会総会合同大会 ランチョンセミナー; 2017/10/20 品川区(きゅりあん).
 5. 小川朝生, 日本のがん緩和ケアへの取り組み. 第5回日本医師会・米国研究製薬工業共催シンポジウム; 2017/10/20 千代田区(ザ・ペニンシュラ東京).
 6. 小川朝生, 認知症を持つがん患者のケア. 第55回日本癌治療学会学術集会共催セミナーLS13; 2017/10/20 横浜市(パシフィコ横浜).
 7. 小川朝生, 抗がん治療薬の解決できない有害事象を脳科学の切り口から考える~薬剤師研究による QOL 改善への突破口~. 第27回日本医療薬学会年会; 2017/11/3 千葉市(東京ベイ幕張ホール).
 8. 小川朝生, せん妄への対応 知ると役立つコツ. 平成29年度宮城県整形外科勤務医会学術講演会; 2017/7/29 仙台市(大正薬品北日本支店).
 9. 小川朝生, ピアサポートについて. 第55回日本癌治療学会学術集会; 2017/10/22 横浜市(パシフィコ横浜).
 10. 小川朝生, 高齢者のがん治療~サイコ

オンコロジーの観点から～. 第 15 回
日本臨床腫瘍学会学術集会;2017/7/28
神戸市(神戸国際会議場).

11. 小川朝生, 認知症を持つがん患者のケア. 第 22 回日本緩和医療学会学術大会 共催セミナーLS15;2017/6/24 横浜 (パシフィコ横浜).
12. 小川朝生, 新たながん対策において求められるサイコオンコロジーの潮流. 第 58 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会;2017/6/17; 札幌(札幌コンベンションセンター).

G . 知的所有権の取得状況

なし

1 . 特許取得

なし

2 . 実用新案登録

なし

3 . その他

なし

